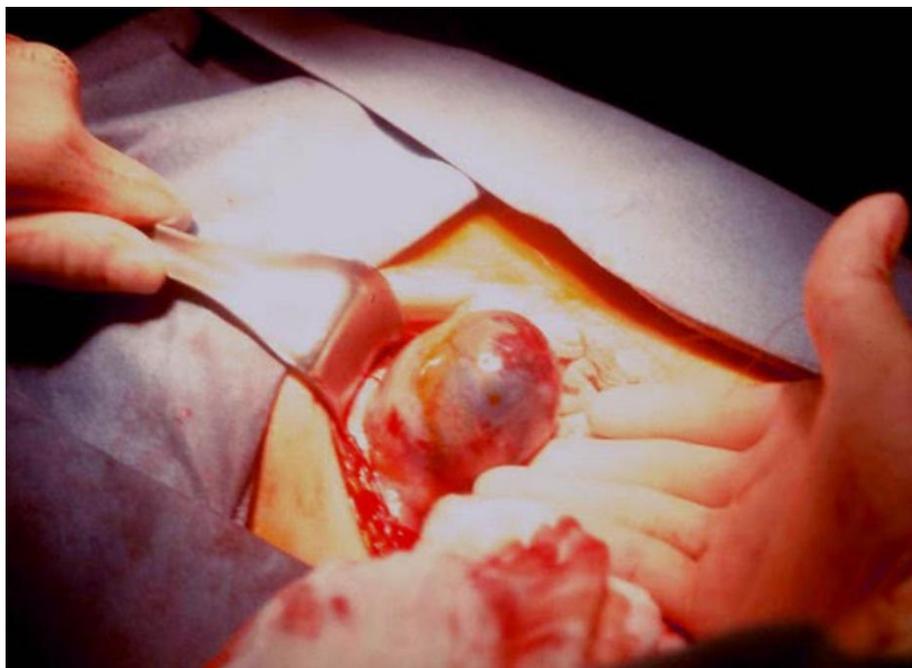
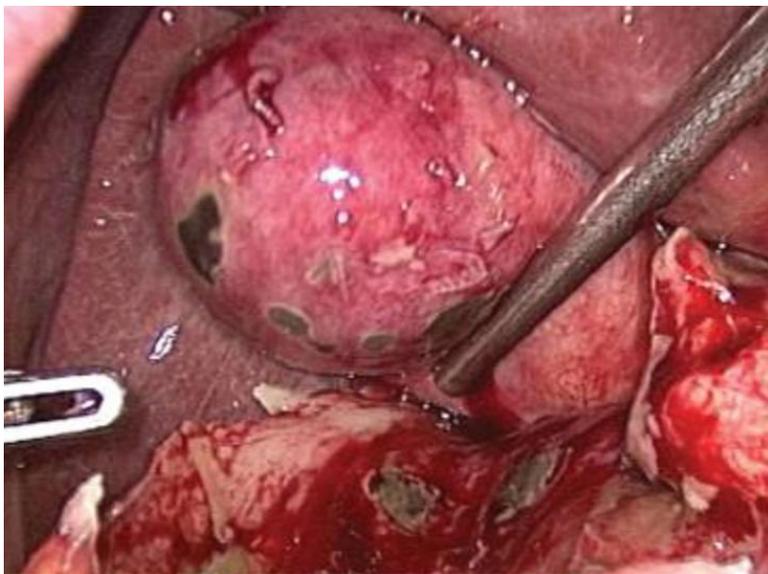


高リスク急性胆嚢炎の治療

高リスクの急性有石胆嚢炎患者 142 例を対象に、腹腔鏡下胆嚢摘出術の経皮的カテーテルドレナージに対する優越性を無作為化比較試験で検討した結果がBMJ誌に掲載されました（CHOCOLATE 試験）。



その結果、主要評価項目に規定した1年以内の死亡率は腹腔鏡術群3%、ドレナージ群9%と差はなく($P=0.27$)、主要合併症発生率は12%、65%と腹腔鏡術群で低い結果となりました(リスク比0.19、95%CI 0.10-0.37、 $P<0.001$)。



胆嚢摘出群の方がドレナージ群より再治療発生率および胆道疾患再発率が低く、入院期間中央値も短い結果となりました(いずれも $P<0.001$)。